

○遠野の地駄引き(馬搬)

地駄引きとは、馬と人が山から木材を運ぶ作業のこと。その伝統技術を収録するため、長年山仕事に従事してこられた農用馬生産者^{にっただひろし}の新田博志さんや馬仕事を生業とする菊池^{きくち}茂勝^{しげかつ}さんによって作業実演が行われました。



遠野馬通信

馬産地遠野とホースマンを結ぶ
情報誌

No.65

2022年4月1日

3月17日、宮守の伐採所にて

○農用馬と乗用馬、共に

山林が多い遠野では、昭和50年代ごろまで馬が運び出した木で家を建てるのが普通だったため、大勢の馬方さんが農用馬と共に遠野のいろいろな場所で仕事をしていたそうです。けれども機械化によって農用馬の役割が失われ、平成15年頃には遠野で地駄引きをする馬方さんは菊池^{きくち}盛治^{もりじ}さんと見方^{みかた}芳勝^{よしかつ}さんの二人だけになっていました。平成22年に地駄引きの技術継承を目的として岩間^{いわまたかし}敬氏を中心に一般社団法人馬搬振興会が設立されましたが、盛治さんと見方さんのお二人が相次いで引退した後は、遠野の地駄引きの伝統は途絶えたかのようにみえました。けれども、これまで声をひそめていた働く馬・農用馬への思いを持つ人々が声をあげ、遠野の地駄引きが再び蘇ったのです。地駄引き(馬搬)は、機械が入れない山でも馬なら分け入ることができ、機械よりも山が荒れないという理由で全国的に注目されていますが、実際はとても足場が悪い現場での作業。馬に精通した馬方さんでなければ決して安易にできる仕事ではありません。しかし遠野には馬のことや山仕事を伝授できる人がまだいるのです。馬産地としての遠野の伝統は乗用馬生産という形で継承され、これまでに多くのスポーツホースが競技会で活躍してきました。今後は乗用馬と共に、働く馬・農用馬の生産・活用も盛んな馬産地・遠野の発展を期待しています。



木材の集積は手作業で



今回の実演では牝馬・ハルコが活躍